

- ◆日程 2017年6月18日(金)
- ◆メンバー L：渡辺 yt
- ◆目的 ①山寺で芭蕉の足跡を体感する。
②山形市で「板そば」を食べる。
③塩釜神社をあるく。
6月17日(土) 塩釜市の史跡巡り。
6月18日(日) 山寺ハイキング
6月19日(月) 塩釜市の老舗巡り

千賀の浦

塩釜の海は平安の昔より千賀の浦と呼ばれた。源氏物語の光源氏とされる源融は、この海を横して京都に造園した。京都一の美しさと大きさを誇った。融が丘の地名が塩釜に残っている。

塩竈神社

陸奥・奥州一之宮の格式。境内は実に広大。奥森を含めるとその広さは国内でも最大級。表参道を表坂と呼び、202石段一直線の急勾配。裏参道は裏坂という。黒い御影石の緩やかな幅広の石段は1キロも続く。名勝千賀の浦が眼下に広がる。

山寺

正式には宝珠山・立石寺という。参道中ほどに、せみ塚という石塚があり、背後に百丈岩と名付けられた垂直の岩が天まで届く。

「閑さや岩にしみ入る蟬の声」芭蕉

玉こんにやく

山形といえば玉こんにやくだ。団子のようにまん丸のしょうゆ味だ。山寺では、串団子のように3個で100円だ。これを食べれば奥院まで登れるよ、という口上だったので、私も買った。時間をかけてゆっくり食べた。これが玉こんにやくか。なるほど。

板そば

山形といえば板そばだ。四角いお盆のようなものに、二人前ほどの太めの色の濃いそばが六つに分けてのっていた。山形以外のそばはそばじゃない。山形の人はずい切り。なるほど歯ごたえは十分。

隣の席の老婦人とそばやお酒の話になった。若い時に横浜にもいたらしい。仙台からそばを食べに来た。粹で可愛い洗練されたこの老婦人おすすめの純米大吟醸をおみやげに買った。

時空庵

塩釜の骨董屋だ。本物の骨董品が正直な値段で並んでいた。主人と2時間ほど話し込んだ。あっという間に時間が過ぎた。心が満たされた、と感じた。

蔵王・不忘山の稜線

帰路、新幹線の車窓から黒く不忘山が見えた。その稜線はなだらかで、一部のすきも無い品格をそなえている。これ以上の曲線美はないだろうと、不忘山はしかし謙虚にそこにあった。